

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2002-60329 (P2002-60329A)

【公開日】平成 14 年 2 月 26 日 (2002.2.26)

【出願番号】特願 2000-246895 (P2000-246895)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/42

【F I】

A 6 1 K 7/42

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 19 日 (2005.7.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

無水ケイ酸で被覆され、さらにシリコンで表面処理された微粒子酸化亜鉛の複合粉末を媒体攪拌ミル又は高圧分散機により油又は水中で分散処理したことを特徴とする日焼け止め化粧料。

【請求項 2】

請求項 1 記載の化粧料において、無水ケイ酸で被覆され、さらにシリコンで表面処理された微粒子酸化亜鉛の複合粉末が 0.1 μm 以下の微粒子酸化亜鉛に無水ケイ酸を被覆率 5～30 重量％で被覆し、さらにシリコンを 3～12 重量％で表面処理した粉体であることを特徴とする日焼け止め化粧料。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の化粧料において、無水ケイ酸で被覆され、さらにシリコンで表面処理された微粒子酸化亜鉛の複合粉末を 3～30 重量％配合することを特徴とする日焼け止め化粧料。

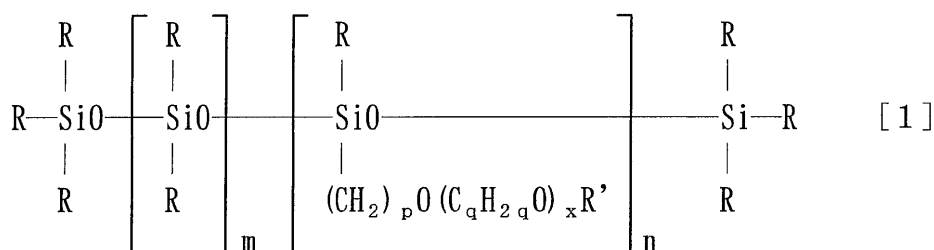
【請求項 4】

請求項 1～3 に記載の化粧料において、さらにポリオキシアルキレン変性ポリシロキサンを 0.5～7 重量％配合することを特徴とする日焼け止め化粧料。

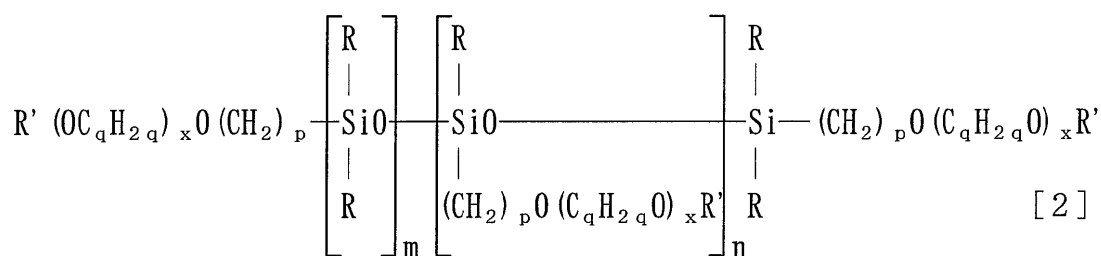
【請求項 5】

請求項 4 に記載の化粧料において、ポリオキシアルキレン変性ポリシロキサンが下記一般式〔1〕、〔2〕又は〔3〕から選ばれる 1 種または 2 種以上であることを特徴とする日焼け止め化粧料。

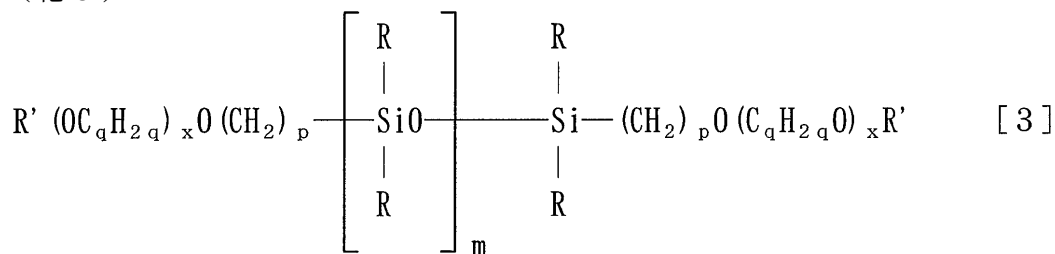
(化 1)



(化 2)



(化3)



(ただし、一般式〔1〕、〔2〕、〔3〕中、Rはメチル基又は一部がフェニル基、 $\underline{R}$ は水素数又は炭素数1～12のアルキル基、pは1～5の整数、qは2～3の整数、x、m、nは平均数でポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンが分子中にポリオキシアルキレン基を5～40重量%含有し且つ該ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンの分子量が2000以上になるような整数を表わす。)

【請求項6】

請求項1～5のいずれかに記載の化粧料において、さらに脂肪酸及び脂肪酸セッケン、脂肪酸エステルから選ばれる1種又は2種以上で表面処理した粉末を1重量%以上配合することを特徴とする日焼け止め化粧料。

【請求項7】

請求項1～5のいずれかに記載の化粧料において、さらに粉体の分散剤として、脂肪酸及び脂肪酸セッケン、脂肪酸エステルから選ばれる1種又は2種以上を0.1重量%以上配合することを特徴とする日焼け止め化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

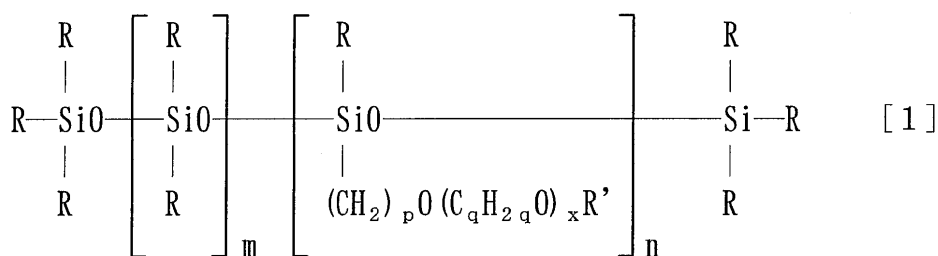
【補正の内容】

【0008】

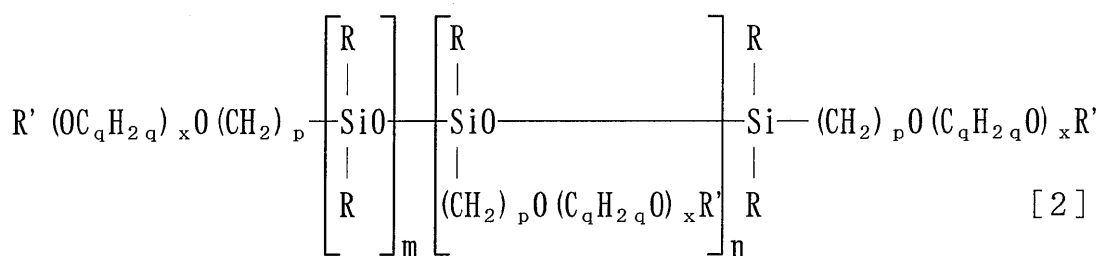
【0008】

また、本発明の日焼け止め化粧料においては、前記ポリオキシアルキレン変性ポリシロキサンが下記一般式〔1〕、〔2〕又は〔3〕から選ばれる1種または2種以上であることが好適である。

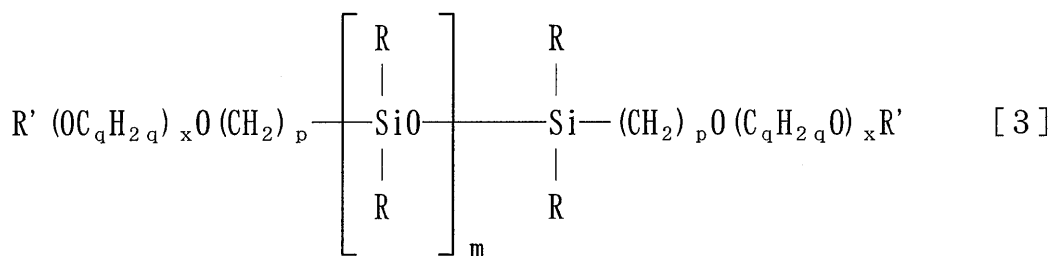
(化4)



(化5)



(化6)



(ただし、一般式〔1〕、〔2〕、〔3〕中、Rはメチル基または一部がフェニル基、R'は水素または炭素数1～12のアルキル基、pは1～5の数、qは2～3の数、x、m、nは平均数でポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンが分子中にポリオキシアルキレン基を5～40重量%含有し且つ該ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンの分子量が2000以上になるような数値を表わす。)

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

一般式〔1〕、〔2〕、〔3〕中、Rはメチル基又は一部がフェニル基、R'は水素または炭素数1～12のアルキル基、pは1～5の数、qは2～3の数、x、m、nは平均数でポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンが分子中にポリオキシアルキレン基を5～40重量%含有し且つ該ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンの分子量が2000以上になるような数値を表わす。本発明には該ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンを少なくとも1種または2種以上を用いることが好適である。